

「ピースおおさか」の惨状を見学

3月6日午後一時、森ノ宮駅には中国研究会会員や日中大阪府連役員、西、堺、東大阪各支部から19名が集合しました。公園の入り口で講師の常本一先生から「ピースおおさか」がなぜ大阪城公園にあるのか、との説明がありました。

さらに戦前は砲兵工廠が大阪城の周りにあり、大阪大空襲で多くの犠牲者を出し、焼け野原になった状況を、会館に入って展示を見学しました。

会館見学のあと、向かいのパル法円坂会議室に移動して、ピースおおさかの設立や展示内容が、「加害・被害の両面展示」から「加害展示の撤去」へと改悪される経過などの説明を受け、市民運動で巻き返そうと提起がありました。

(「府連通信」2016年3月号より)

ピースおおさかの惨状を見学

三月六日午後一時、森ノ宮駅にた状況を、会館に入って展示を見学しました。中国研究会会員や日中大阪府連役員、西、堺、東大阪各支部から一九名が集合しました。公園の入り口で講師の常本一先生から「ピースおおさか」がなぜ大阪城公園にあるのか、との説明がありました。さらに戦前は砲兵工廠が大阪城の周りにあり、大阪大空襲で多くの犠牲者を出し、焼け野原になっ



1945年の母子像まえて

は中国研究会会員や日中大阪府連役員、西、堺、東大阪各支部から一九名が集合しました。公園の入り口で講師の常本一先生から「ピースおおさか」がなぜ大阪城公園にあるのか、との説明がありました。さらに戦前は砲兵工廠が大阪城の周りにあり、大阪大空襲で多くの犠牲者を出し、焼け野原になっ

かいのパル法円坂会議室に移動して、ピースおおさかの設立や展示内容が、「加害・被害の両面展示」から「加害展示の撤去」へと改悪される経過などの説明を受け、市民運動で巻き返そうと提起がありました。(近藤)